代表取締役社長の平沢でございます。
これから、2021年度 第2四半期の決算概要について説明させていただきます。

まず始めに、業績から説明いたします。

1.1　会社業績状況（半期）

売上高及び各種利益は、感染症対策関連の製品販売増加により
増収増益となり、いずれも半期における過去最高を更新しました。

金額(百万円)

	2020年度		2021年度	対前年上半期増減
	上半期	下半期	上半期	
売上高	5,001	7,486	8,411	+68.2%
営業利益	345	1,069	1,480	+329.0%
営業利益率	6.9%	14.3%	17.6%	―
経常利益	490	1,072	1,665	+239.4%
経常利益率	9.8%	14.3%	19.8%	―
当期純利益	364	772	1,174	+222.3%
当期純利益率	7.3%	10.3%	14.0%	―

上半期：1月～ 6月
下半期：7月～12月

AIRTECH

Copyright 2021 AIRTECH JAPAN, LTD. All Right reserved.

3

本年の上半期の売上高及び各種利益は、感染症対策関連として、病院向け、福祉施設、一般オフィス、PCR検査施設、ワクチン製造会社を代表とする製薬業界等へ幅広く製品の販売が増加した結果、増収増益となり、いずれも半期における過去最高を更新しました。

昨年のQ2より新型コロナウイルスによる影響を受け始めましたが、上半期比較では売上は68%、営業利益は329%増加となっております。

1.2　会社業績状況（四半期）

Q2は、3月末を期限とした感染症対策関連製品への補助金交付が終了したため、Q1より売上高及び各利益共に減少しました。

金額(百万円)

	2020年度				2021年度		対2021 Q1 増減	対2020 Q2 増減
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2		
売上高	2,468	2,533	3,367	4,119	5,319	*3,092*	-41.9%	22.1%
営業利益	134	211	498	571	1,184	*296*	-75.0%	40.2%
営業利益率	5.4%	8.3%	14.8%	13.9%	22.3%	*9.6%*	―	―
経常利益	126	364	498	574	1,205	*460*	-61.8%	26.5%
経常利益率	5.1%	14.4%	14.8%	13.9%	22.7%	*14.9%*	―	―
当期純利益	91	272	337	434	837	*336*	-59.8%	23.5%
当期純利益率	3.7%	10.8%	10.0%	10.6%	15.7%	*10.9%*	―	―

AIRTECH

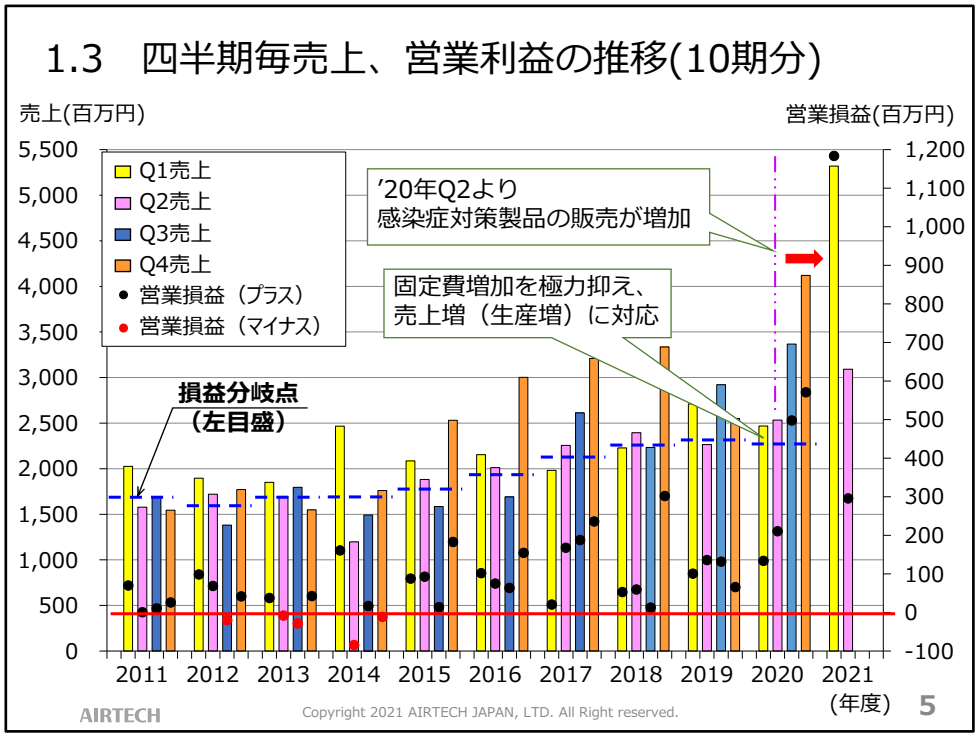
Copyright 2021 AIRTECH JAPAN, LTD. All Right reserved.

4

四半期毎の業績では、本年のQ1は3月末を期限とした感染症対策関連製品への補助金交付により、売上及び各種利益が大幅に増加いたしました。

補助金終了後のQ2はQ1に比べ、売上高及び各利益共に40%以上減少しております。

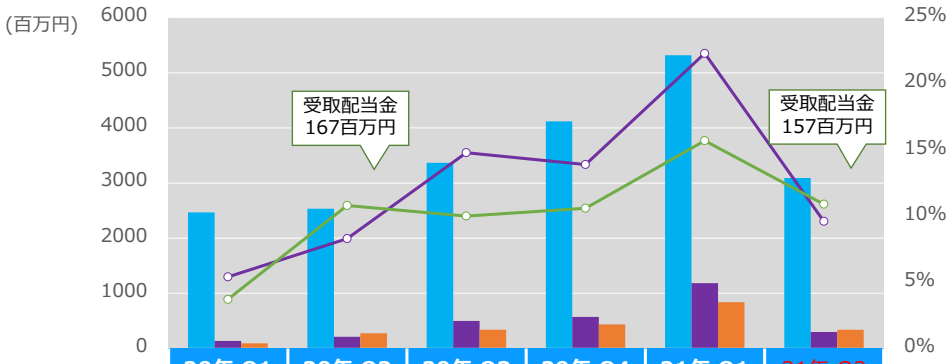
なお、昨年同期比では、売上が22%増、営業利益は40%の増加となりました。
感染症関連の売上はほぼ同等でした。昨年Q2は、初めての緊急事態宣言の影響により、工事予定が順延になる案件が多数ありましたが、今期はその影響がなく、感染症関連以外の製品が順調に売上計上されたことが主要因になります。



過去10期の四半期毎売上と営業損益を示しています。
昨年Q2より感染症対策製品の販売増加により、売上が伸長しました。
また協力会社様の助力をいただき、固定費増加を抑えつつ、生産及び売上の増加に対応しました。

本年1月からは、越谷新工場の稼働が開始し、通常月の3倍以上の生産を行うことができました。
その結果Q1の営業利益は、11億84百万円となり過去最高になっております。

1.4　会社業績状況（四半期）

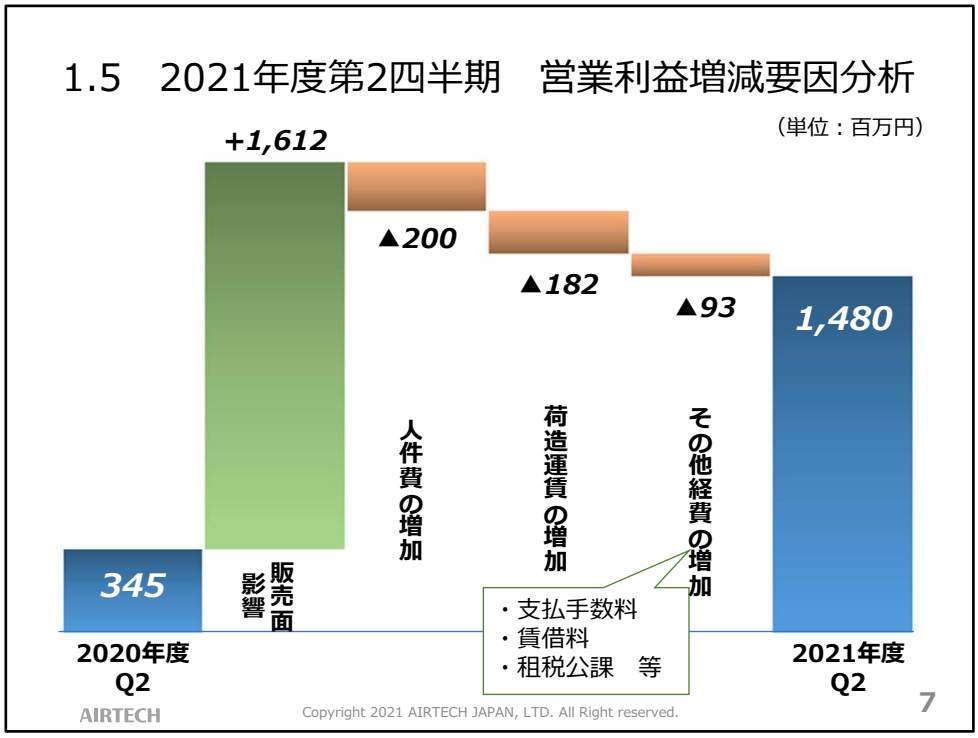


	20年 Q1	20年 Q2	20年 Q3	20年 Q4	21年 Q1	21年 Q2
売上高	2,468	2,533	3,366	4,119	5,319	*3,092*
営業利益	134	211	498	571	1,184	*296*
営業利益率	5.4%	8.3%	14.8%	13.9%	22.3%	*9.6%*
当期純利益	91	272	337	434	837	*336*
当期純利益率	3.7%	10.8%	10.0%	10.6%	15.7%	*10.9%*

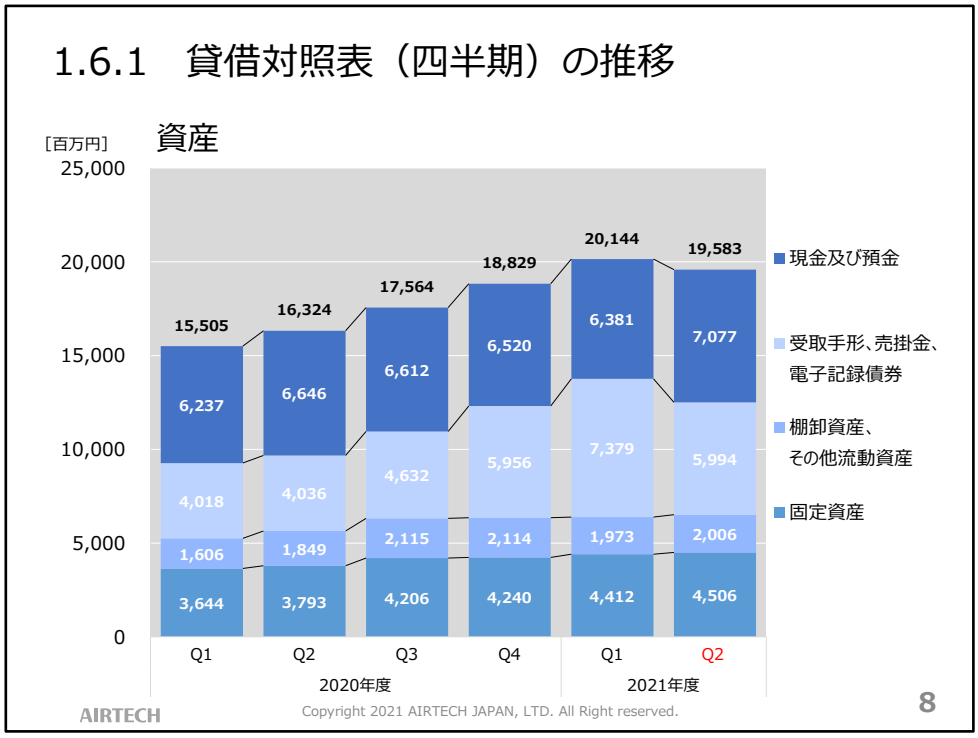
AIRTECH
Copyright 2021 AIRTECH JAPAN, LTD. All Right reserved.
6

昨年から本年Q2までの四半期毎の業績をグラフに示します。
中国、台湾等海外の提携先を主とした受取配当金は、昨年は1億67百万円、本年は1億57百万円となりました。
中国はバイオ関連、台湾は半導体関連に強みを持っています。

昨年Q2以降は、営業利益率、純利益率共に従来より大幅に向上しました。
その理由として、標準仕様である感染症対策製品の売上割合が高くなったこと、感染症関連以外の標準在庫品の販売も堅調であったこと、特殊製品に関しても全般的に受注価格が安定したことによります。



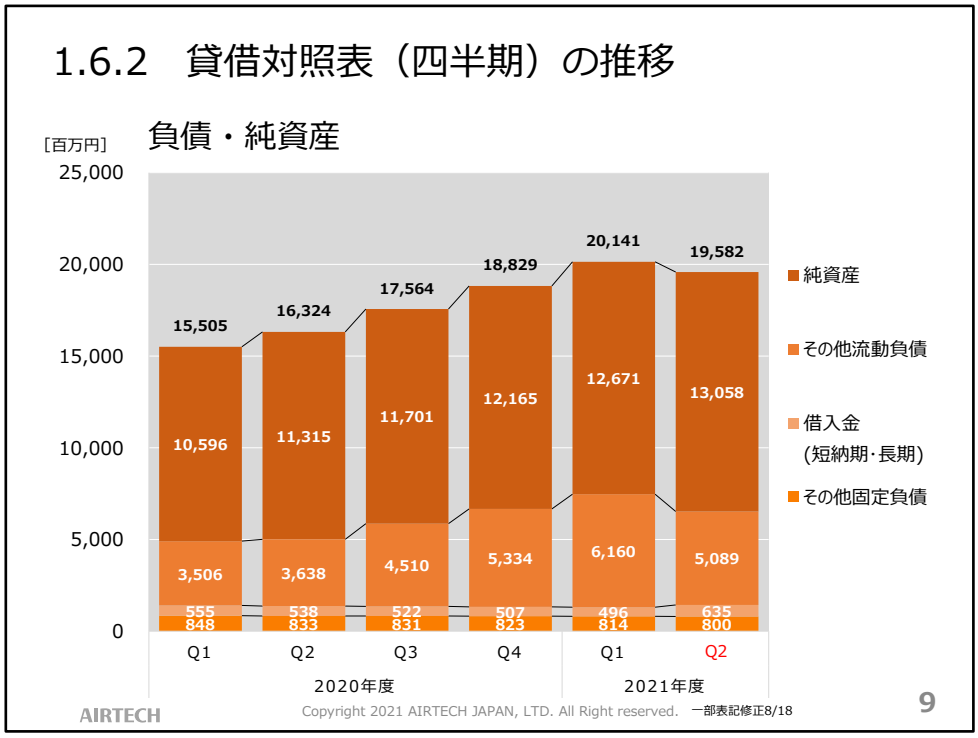
昨年Q2（上半期）と本年Q2（上半期）を比較した、営業利益増減分析になります。
3億45百万円から14億8千万円に増加した最大の理由は、原材料の高騰、外注加工費増加があったものの、販売面の影響によるプラス効果が約16億円あったことによります。
経費の増加面では、人件費、荷造運賃等の増加がありましたが、結果として営業利益は11億35百万円の増加となりました。



四半期毎の賃借対照表「資産」のグラフです。

Q2はQ1より売掛金などの債権が減り、約7億円の 「現金及び預金」が増加しました。

また固定資産は、昨年Q4に比べて2億66百万円増えています。これは越谷新工場の建物と桐生の工場用地取得によるものです。

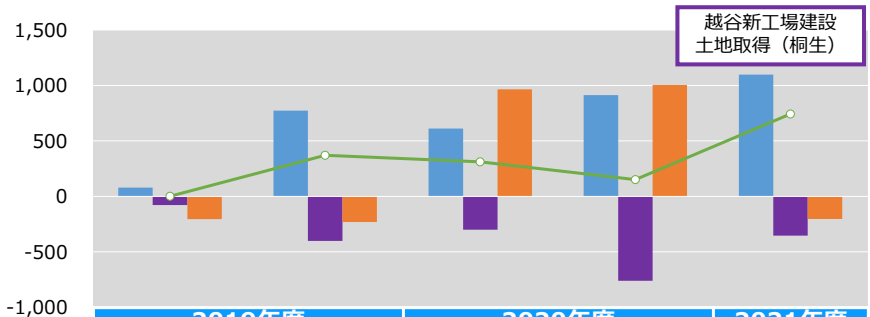


同じく賃借対照表「負債・純資産」のグラフです。

本年Q2は、昨年Q4、本年Q1に増加した債務の支払いが進み、製品保証引当金の取り崩しなどもあり、借入金を除く「その他流動負債」は50億89百万円となりました。

また譲渡制限付き株式報酬を導入したこと、利益剰余金増により純資産合計は130億58百万円になっております。

1.7　キャッシュ･フロー（半期）の概要



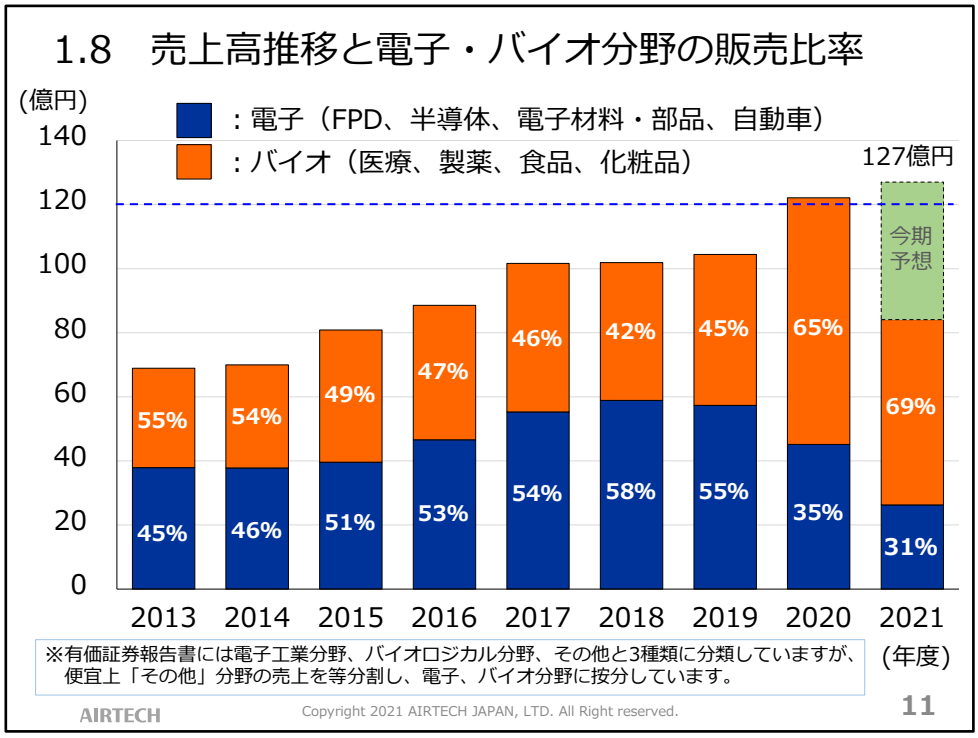
（単位：百万円）	2019年度 Q2	2019年度 Q4	2020年度 Q2	2020年度 Q4	2021年度 Q2
営業CF	79	773	612	914	1,098
投資CF	△78	△402	△301	△761	△354
財務CF	△205	△231	966	1,004	△203
フリーCF	1	371	311	152	743
手元資金残高	4,399	4,748	6,020	5,894	6,451

注記：CF（キャッシュフロー）
＊1　フリーCF＝営業CF＋投資CF
＊2　手元資金残高は、現金及び現金同等物としております

AIRTECH
Copyright 2021 AIRTECH JAPAN, LTD. All Right reserved.
一部表記修正8/18
10

2019年度からの半期毎のキャッシュフローを示しています。
＜営業CF＞
本年上半期の営業活動にて得た資金は10億98百万円となり、税引前純利益16億65百万円の計上と法人税等の支払い3億69百万円があったことによります。
＜投資CF＞
当期にて使用した資金3億54百万円の内訳は、越谷新工場建設と桐生の土地取得による支出3億51百万円が主となります。
＜財務CF＞
こちらの資金は2億3百万円となりました。配当金の支払い3億36百万円及び長期借入れによる収入1億5千万円がありました。

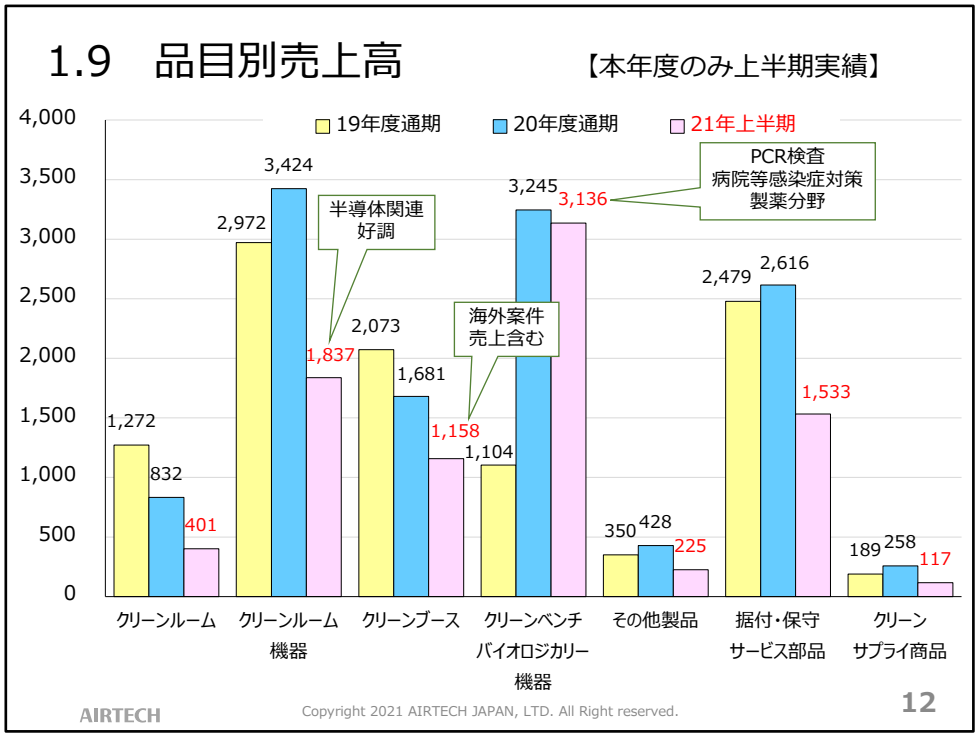
以上により、フリーCFは増加し、7億43百万円となりました。



2021年度の分野別販売比率は、上半期の実績のみを示します。
電子分野は、31%。　バイオ分野は、69%となりました。バイオ分野の比率を押し上げた要因は、感染症対策製品の伸長によるものです。

今後の厚生労働省及び各地方自治体からの補助金に関して、予算は発表されているものの8月初旬の時点で具体的執行の内容、時期は極めて流動的でした。
よって、下半期の売上予想はこれを加味せず、現時点では通期売上を127億円と見積もっております。

尚、新型コロナ感染症の流行は、新型株の発現により収束の目処はついておりません。
この為、8月中旬以降、9月末までの納入を条件とした引合いが増加しております。今後その様な引き合いを確実に受注出来る様、営業活動を強化し、生産体制を整え対応していく所存です。



2021年度の品目別の売上高のグラフは、上半期実績のみを示します。
クリーンルームは、昨年実績の48%であり、同水準です。
クリーンルーム機器は、半導体関連が好調ですが、エアーシャワーがやや低調であり、昨年実績の53%となっています。
クリーンブースは、海外案件のサーマルクリーンチャンバーの据付完了による売上、西日本のパワー半導体工場向けの大口案件もあり、昨年実績の68%になりました。
クリーンベンチ、バイオロジカリー機器は、PCR検査等の感染症対策製品の需要増と堅調な製薬分野によって伸長し、上半期のみで昨年実績にほぼ匹敵するものとなりました。

クリーンルームからバイオロジカリー機器までの品目は、昨年実績より増加する見込みとなっています。
据付・保守サービスの進捗は、製品売上増に伴い昨年比58%であり順調でした。
今後、交換用HEPAや安全キャビネットの定期点検など定期的に発生する需要を確実に取り込めるように、代理店、ダイレクトメール、メールマガジン、各種広告を通じた営業活動を行ってまいります。

1.10.1　2021年上半期事業進捗

1）通期業績予想を上方修正
5月11日及び8月10日に公表

金額(百万円)

	2月12日 決算短信	5月11日 修正	8月10日 修正	8月対2月 増減
売上高	11,500	12,000	12,700	+10.4%
営業利益	800	1,500	1,580	+97.5%
営業利益率	7.0%	12.5%	12.4%	―
経常利益	970	1,650	1,760	+81.4%
経常利益率	8.4%	13.8%	13.9%	―
当期純利益	689	1,144	1,220	+77.1%
当期純利益率	6.0%	9.5%	9.6%	―
期末配当合計予想 (円 銭)	25.00	―	36.00	+11.00

AIRTECH
Copyright 2021 AIRTECH JAPAN, LTD. All Right reserved.
13

ここからは、本年上半期の事業進捗に関し、ご説明いたします。

通期業績予想については、第2章にて詳しくご説明しますが、本年2月時の想定に対し、5月の上方修正を経て、8月10日に再度修正いたしました。
売上は10.4%増の127億円、営業利益は97.5%増の15億8千万円等に、上方修正しております。

また期末配当金予想は11円増の36円といたしました。

1.10.2　2021年上半期事業進捗

2) 越谷新工場の有効活用　（1月15日竣工）
現在まで順調に稼働し、中型製品を増産中

・安全キャビネット
・陰圧ユニット　他

AIRTECH
Copyright 2021 AIRTECH JAPAN, LTD. All Right reserved.

越谷新工場は、1月15日に竣工いたしました。
Q1では竣工直後からクリーンパーティション、陰圧ユニット等、感染症対策製品を主に生産を行い、3月末の期末納期に対応しました。
現在では、エアーシャワー、安全キャビネット等の中型製品を組立てております。

搬入口には、暖気侵入と虫の侵入を抑える当社製エアーカーテンを設置し、省エネルギー対応としています。

1.10.3　2021年上半期事業進捗

3)　本社展示室の有効活用

オンライン代理店説明会の実施（6月16日）

全国の電子系、バイオ系代理店より約1,100名が参加

AIRTECH

Copyright 2021 AIRTECH JAPAN, LTD. All Right reserved.

15

本社展示室（ショールーム）は、昨年11月末に完成しました。

感染症対策製品や小型ながら本格的なクリーンルームも設置しています。
都内にあり、通常であればお客様に多数ご来場いただけるのですが、現状は一日最大4組以内に限定し運用しております。

一方で、本年はショールームを活用し、初の試みとして代理店説明会をオンライン方式（ウエビナー）で開催しました。
全国の電子系、バイオ系代理店の皆様より、約1,100名が参加され、質疑応答も活発に行われました。

1.10.4　2021年上半期事業進捗

4)　高性能フィルターの生産工場用土地取得（1.7億円）
　　高性能フィルターの拡販PR（交換需要喚起）を開始

AIRTECH
Copyright 2021 AIRTECH JAPAN, LTD. All Right reserved.
16

本年6月に、高性能フィルター（HEPAフィルター等）の生産工場用として、群馬県桐生市の桐生武井西工業団地内に12,800m^{2}の土地を約1億7千万円で取得しました。

感染症対策製品であるクリーンパーティション、陰圧ユニットやPCR検査に必要な安全キャビネットの交換用HEPAフィルター等、今後その需要増に対応すること、さらに成長著しい半導体装置用の高性能PTFEフィルターの生産用として新工場を建築することにしました。

2階建て（延べ床面積 約3,000m^2）で本年12月着工、来年7月竣工の予定です。

これによりフィルターの売上を毎年10～20%増加させ、2025年には2020年の約2倍以上とする計画です。

1.11　SDGsと社業との関係

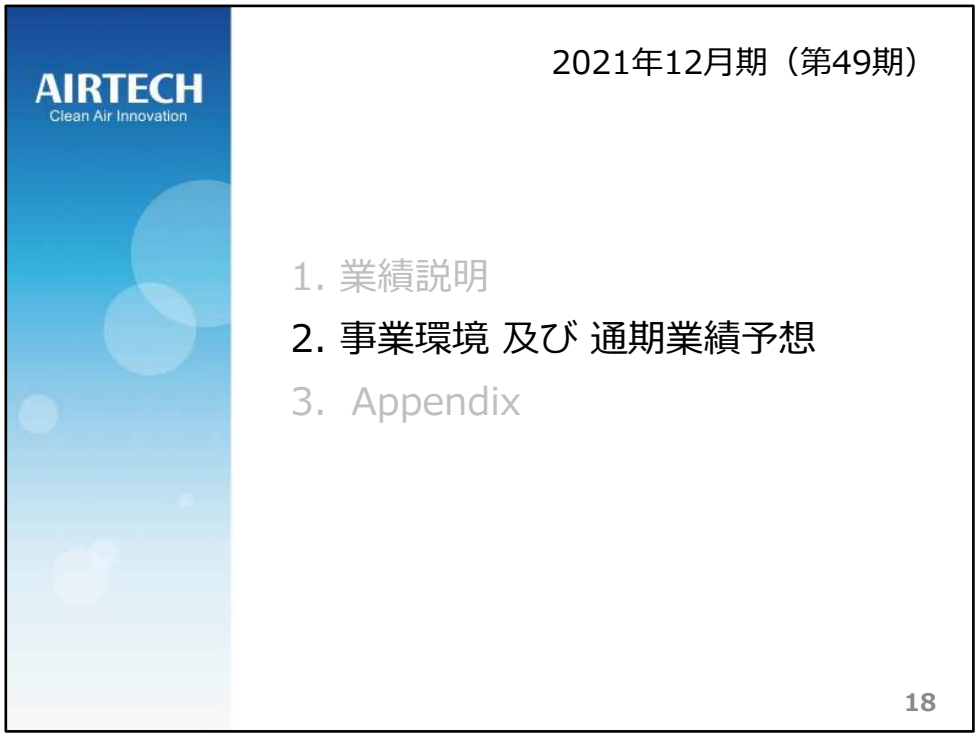
　当社は、本業（クリーンエアーシステムの設計、製造、販売）を通じて、環境側面・社会側面の双方から、持続可能な社会の実現に貢献していきます。
　各種産業・研究機関の顧客を通じて社会の安全、快適な暮らし、そして健康に直結する製品を多く有しており、急速な技術進歩が進む中で、それらの技術（顧客）を縁の下で支える企業として製品開発に尽力し、日本そして世界へ貢献していく所存です。

AIRTECH　Copyright 2021 AIRTECH JAPAN, LTD. All Right reserved.

SDGsと当社の本業であるクリーンエアーシステムは密接に関係しており、5つの目標を対象に環境側面・社会側面の双方から持続可能な社会の実現に貢献しています。

食品の異物混入防止は、食品の安全を担保し、無駄な廃棄を減らせます。
感染症対策製品は、より健康で安全な生活をもたらします。
また当社製品の省エネルギー化は、顧客設備の省エネルギー化に寄与することでCO_2削減に貢献していきます。
なお、当社は20年以上前から低消費電力のファン開発に取り組み、その結果、当社製品は業界でトップクラスの省エネルギー性能を有しています。

急速な技術進歩が進む中で、それらの技術（お客様）を縁の下で支える企業として製品開発に尽力し、日本そして世界へ貢献してまいります。



ここから、第2章 事業環境及び通期業務予想を説明いたします。

2.1　2021年クリーンエアーシステム市場動向

バイオ分野（2021年6月末時点）

1）製薬、再生医療、医療、食品は堅調に推移する。特に食品はHACCP 義務化、再生医療は市場拡大により昨年以上の設備投資が見込まれます。
2）医療施設向けの感染症関連製品は、本年3月をピークに減少すると予想しています。しかし感染症対策の意識が変化し、今後は福祉施設、災害避難所、オフィス、学校等公共施設における新市場の成長を期待しています。

製　薬		PICS加入による新規設備・改修の需要 ジェネリック医薬品（医療費削減の為） 化学合成薬品→バイオ医薬品 ワクチン開発、製造
医　療		医療関連は、少子高齢化に伴い成長 特に再生医療関係が急成長中 21世紀は感染症との戦い～院内感染防止、老人福祉施設
再生医療		再生医療施設の急増 研究(iPS、ES他)の実用化に向けた研究投資
食　品		食品への異物混入防止(FSSC22000) HACCP・食品衛生法改正(2020年6月より施行)
遺伝子組換 その他		品質改良技術加速 無菌化技術 PM2.5粒子、ナノ粒子制御技術

AIRTECH
Copyright 2021 AIRTECH JAPAN, LTD. All Right reserved.
写真は東洋水産HP、ウィキペディアより引用
19

バイオ分野における見通しです。

1) 製薬、再生医療、医療、食品は堅調に推移すると予想しています。

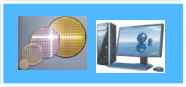
特に食品はHACCP 義務化、再生医療は市場拡大により昨年以上の設備投資が見込まれます。

２）医療施設向けの感染症関連製品は、本年3月をピークに減少すると予想しています。
しかし国民の感染症対策（室内における空気清浄化）の意識が変化し、今後は福祉施設、災害避難所、オフィス、学校等公共施設における新市場の成長を期待しており販売を強化しています。

2.2　2021年クリーンエアーシステム市場動向

電子分野（2021年6月末時点）

1）世界的には半導体への大型投資は継続される。関連する製造装置会社、部品・素材会社は好調が見込まれます。
2）半導体の供給不足、自国第一主義による貿易戦争等による景気停滞はあるが、昨年が底であったと考えております。

自動車		自動運転実用化、低燃費化（電気・燃料自動車等）への移行 EV関連の投資が活発（クリーン技術・基準の導入）
スマホ		スマートフォンは成長継続し5Gへ 関連の部品・部材メーカーも良い
半導体		半導体製造装置メーカー、関連企業は好調 5G通信、サーバー関係好調 自動車・カメラ用は今後急成長
有機EL		中国市場は液晶は有機EL設備投資へ 4K、8K
電子部品		ICカード、フィルム、電池関連 材料、部品メーカーに動き有り ＜日本企業強み＞
宇宙・航空		宇宙・航空機産業は国産化が進むと裾野が大きく広がる

写真はトヨタ自動車㈱HP、シャープ㈱HP、京セラ㈱HP、JAXA HP、ウィキペディアより引用

AIRTECH

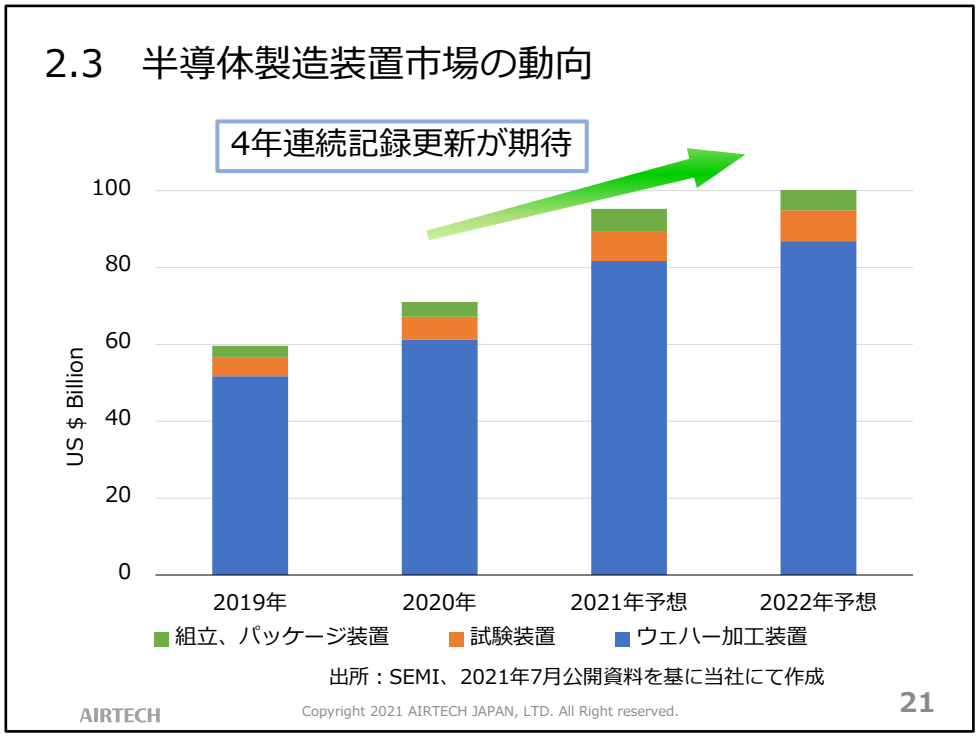
Copyright 2021 AIRTECH JAPAN, LTD. All Right reserved.

20

電子分野における見通しです。

1）世界的には半導体への大型投資は継続されると予想しています。関連する製造装置会社、部品・素材会社は好調であると見込まれます。

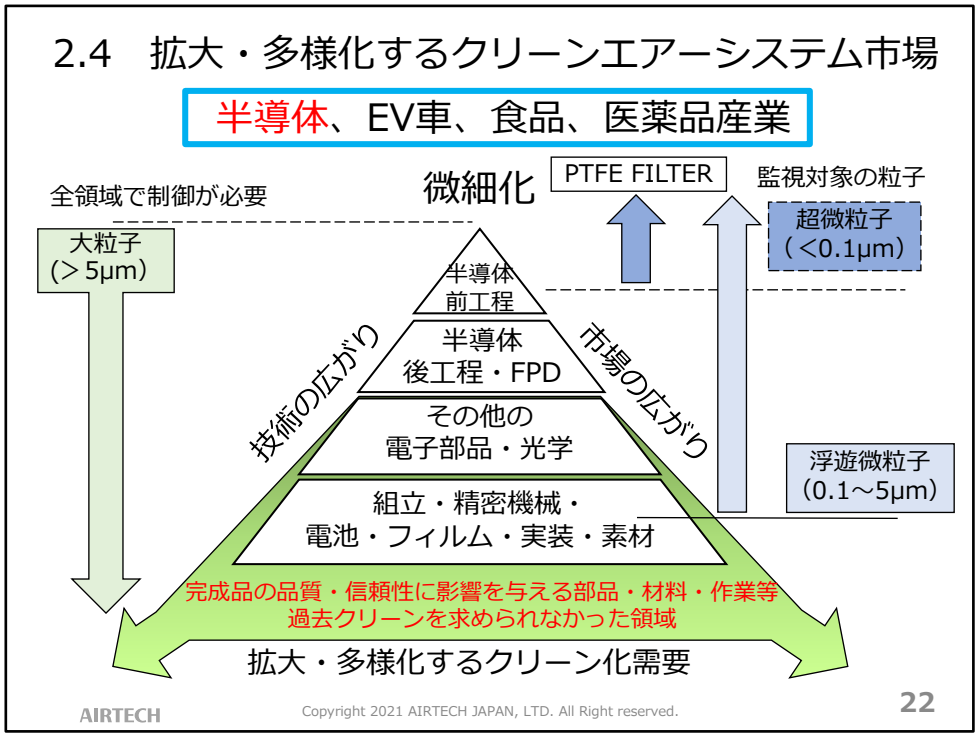
2）半導体の供給不足、自国第一主義による貿易戦争等による景気停滞や混乱がありますが、クリーンエアーシステム市場としては昨年が底であったと考えております。



一例として半導体製造装置市場の動向をご紹介します。

本年は30%強の伸び、来年も6%以上と4年連続で拡大基調が続く予想が発表されています。

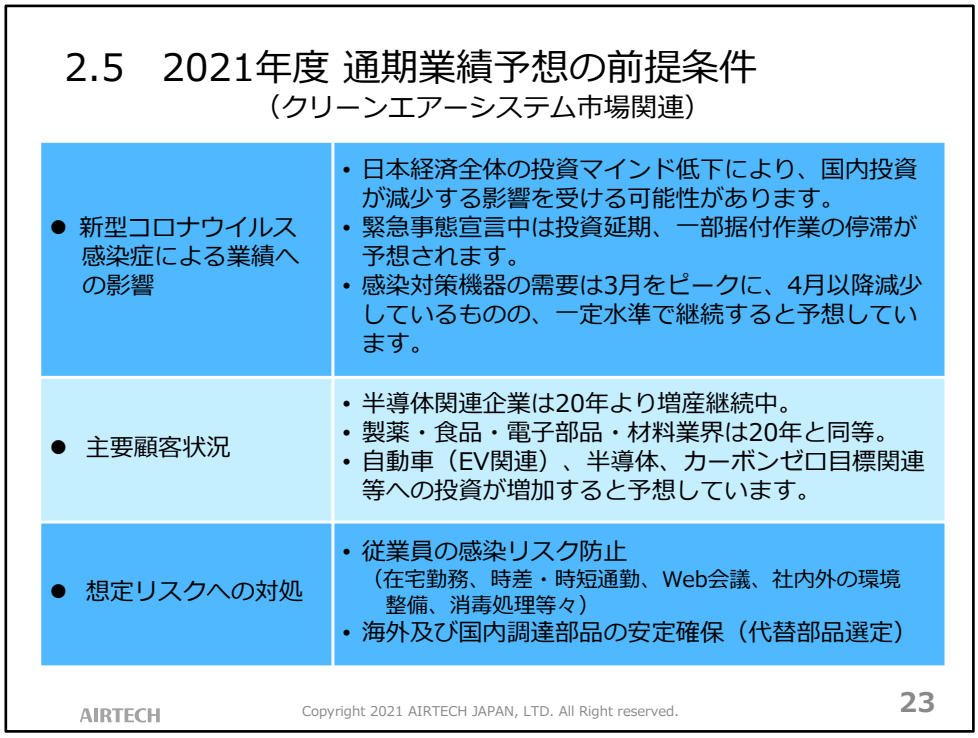
当社のクリーンエアー装置、特にファンフィルターユニットが使用されているのは、図中のウェハー加工装置（青色）分野です。
現在も増産依頼に対応中であり、他の製品引き合いも増加しており、来年も期待ができます。



今後のクリーンエアーシステム市場は、半導体、EV車、食品分野、医薬品産業等の其々の裾野迄、幅広く拡大し、多様化すると考えています。

従来は微小な粒子の高精度な制御が求められていましたが、現在は大粒子の制御まで幅広い分野で要求されるようになってきました。

現時点では、特に電子分野・自動車の顧客において、半導体等の供給不足による一時的な生産停滞は発生しており、
一方で当社調達においても、同様に、半導体などの供給不足、鋼板等の原材料の価格高騰、ナイロン材料不足による各種電気部品の品薄状態等に一定程度影響は受けておりますが、全体的には市場展望は明るいものと考えています。



通期業績予想の前提条件につきましては、本年2月にご説明した内容と基本的に同一です。
・ 新型コロナウイルス感染症による業績への影響は、投資マインドの低下や緊急事態宣言下における据付作業停滞や業務全般へのネガティブ要素がある一方、流動的ではありますが、感染症対策製品の需要については一定水準で継続すると予想しています。

・ 主要顧客状況としては、半導体関連は増産を継続しており、製薬、食品、電子関連、材料は昨年と同等と推定しています。
自動車、半導体、カーボンゼロ目標達成関連への投資は増加すると予想しています。

・ 想定リスクとしては、従業員の感染リスク防止と海外及び国内調達部品の安定確保があります。

2.6　会社業績予想（通期）

上半期は新型コロナウイルスの感染防止対策機器の売上が想定以上に伸長。
半導体・電子分野は堅調。バイオ分野も製薬会社の設備投資に伴い堅調に推移。
第3四半期以降、病院・福祉施設等への補助金交付の動向は不透明であり、
売上・利益への影響は当初想定から変更せず、保守的に業績予定を算定。

金額(百万円)	2020年度（実績）	2021年度（予想）			
		上半期実績	下半期予想	通期予想	通期対前年増減
売上高	12,487	8,411	4,288	12,700	1.7%
営業利益	1,414	1,480	99	1,580	11.7%
営業利益率	11.3%	17.6%	2.3%	12.4%	―
経常利益	1,562	1,665	94	1,760	12.6%
経常利益率	12.5%	19.8%	2.2%	13.9%	―
当期純利益	1,136	1,174	45	1,220	7.4%
当期純利益率	9.1%	14.0%	1.1%	9.6%	―
EPS ※	114円29銭	113円66銭	―	118円07銭	3.3%

※　EPS：Earing Per Share　一株当たり当期純利益

AIRTECH
Copyright 2021 AIRTECH JAPAN, LTD. All Right reserved.
24

改めまして、通期の業績予想です。

Q3以降、病院・福祉施設等への補助金交付の動向は不透明であり、売上・利益への影響は当初想定から変更せず、保守的に業績予定を算定しております。
上期に対し、下期の売上予想が約50%に留まるのは、Q1のような感染症対策機器の売上が見込めないこと、変異ウイルスの出現により一時緩和していた海外渡航・国内営業活動制限が厳しくなることの影響も加味しています。

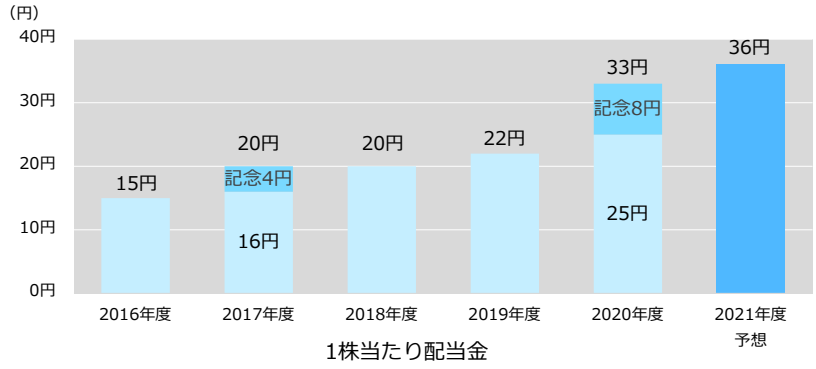
また営業利益を上期に対し6.7%と低率に見込んだのは、今申し上げた厳しい前提では損益分岐点付近の売上になるためです。種々の生産効率化、原価低減に取り組む所存です。

今後の業績上振れ要因としては、感染症対策製品の受注増、ワクチン接種パスポート活用による円滑な出張の再開、更に半導体・ナイロンなどの部品供給が元に戻り産業全体の活動が活発になることなどがあげられます。

2.7　配当予想（通期）

配当性向は30%以上を基本としています。

21年12月期予想	期末配当：36円（予定）	2021年8月10日 上方修正公表 普通配当 25円から11円を増額
20年12月期	期末配当：33円	普通配当 25円 記念配当　8円 本社増築及び越谷新工場記念



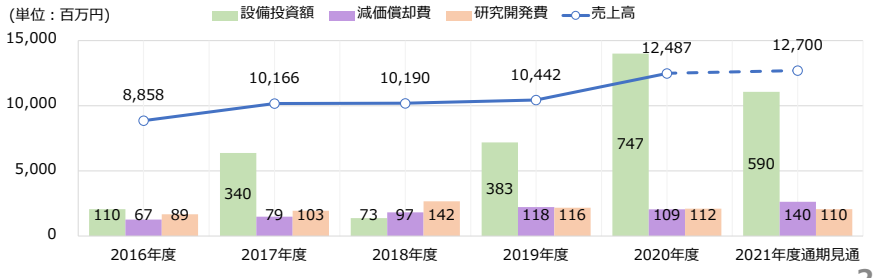
Copyright 2021 AIRTECH JAPAN, LTD. All Right reserved.

配当予想は配当性向を30%以上としていることより、純利益の増加予想に伴い11円増の36円にいたしました。
昨年33円（内8円は記念配当）より増配となっています。

2.8　設備投資、減価償却費及び研究開発費年度別推移

(単位:百万円)	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 上半期実績	2021年度 通期見通し
売上高	8,858	10,166	10,190	10,442	12,487	8,411	12,700
設備投資額	110	340	73	383	747	375	590
構成比(%)	1.2%	3.3%	0.7%	3.7%	6.0%	4.5%	4.6%
減価償却費	67	79	97	118	109	67	140
構成比(%)	0.8%	0.8%	1.0%	1.1%	0.9%	0.8%	1.1%
研究開発費	89	103	142	116	112	59	110
構成比(%)	1.0%	1.0%	1.4%	1.1%	0.9%	0.7%	0.9%

売上高及び設備投資・減価償却費の年度推移



AIRTECH

Copyright 2021 AIRTECH JAPAN, LTD. All Right reserved.

26

設備投資につきましては、上半期実績で当初計画していた通期3億7千万円を既に超過し、今後フィルター新工場建設及び草加工場での倉庫建設を合わせ、5億9千万円と計画しています。

それに伴い、減価償却費（当初見込み1億1千万円）も通期で1億4千万円を見込んでいます。

また研究開発費は、感染症対策機器及び各種開発・改良を進めており、通期で1億1千万円を見込んでいます。

2.9　2021年度 下期以降の注力目標

１．SDGs関連製品の完成と販売開始

感染症対策製品、省エネルギー化、食品分野向け製品

２．売上増加対策

１）感染症対策製品の継続拡販

２）半導体・電子分野への拡販

３）新市場への継続的な新製品上市

４）定常的な売上品目の拡販

交換フィルター、製品の定期点検

３．高性能フィルター事業を次の大きな柱に育成

４．中期計画(2022年～2026年）の策定と実施

AIRTECH Copyright 2021 AIRTECH JAPAN, LTD. All Right reserved. 27

本年下期以降の注力目標になります。
１．現在開発を進めている、SDGs関連製品を完成させ販売開始することが最重要と考えております。
その主なものは、感染症対策製品、省エネルギー化設計、食品分野向け製品です。
２．売上増加策としては、
１）感染症対策製品の継続的な拡販
２）半導体・電子分野への拡販
３）新市場への継続的な新製品の上市
４）定常的に売上が見込める品目の拡販
例えば、交換フィルターや、製品の定期点検です。
３．桐生の新工場用地にてHEPAフィルタ―専用工場を立ち上げ、高性能フィルター事業を次の大きな柱に育成します。
４．昨年、本年と大幅に業績が向上したこともあり、現在2022年～2026年の中期計画を策定しております。内容が固まり次第、開示する予定にしております。

以上で決算概要の説明を終わります。

将来見通し等について

- 将来見通し

　本資料に記載されている当社の事業計画、将来予測などは、当社が現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、これらの予想は、新型コロナウイルス感染症の国内外の感染状況、経済情勢・市況の変化、競争環境の変化、関係国の政策変化、係争中及び将来の訴訟の結果など多くの潜在的リスク、不確実な要素、過程の影響を受けますので、実際の業績は見通しから大きく異なる結果となる可能性があります。

　従って、これら将来予想に関する記述に全面的に依拠することは差し控えて頂きますようお願いいたします。従いまして、本資料の内容につきましては、当社は一切責任を負うものではありませんので、ご了承ください。また、当社は新しい情報、将来の出来事などに基づきこれらの将来予測を更新する義務を負うものではありません。

- 数字の処理

　記載された金額は、単位未満を切り捨て処理、比率は単位金額で処理した結果を四捨五入している為、内訳の計が合計と一致しない場合があります。

Copyright 2021 AIRTECH JAPAN, LTD. All Right reserved.

AIRTECH
Clean Air Innovation

2021年12月期（第49期）

1. 業績説明
2. 事業環境 及び 通期業績予想
3. Appendix

29

1.11.1　サステナブルファイナンスの報告概要

増資資金（9.6億円）は以下3件に投じ、各目標の達成を目指します。
「越谷新工場」建築、「本社（ショールーム）」増築
「研究開発」～　省エネルギー、感染症対策・食品関連製品開発

【充当した資金の総額及び使途】　2021年3月末　当社HP公開データ

項目		想定	実績	想定との差額
資金調達額		975	**967**	▲8
資金充当額	ⅰ）越谷新工場	575	**536**	▲39
	ⅱ）本社(ショールーム)	295	**320**	25
	ⅲ）研究開発	105	**75**	▲30
	計	975	**931**	▲44
未充当金額		0	**36**	—

【環境側面での改善インパクト】

ⅰ）「越谷新工場」、ⅱ）「本社(ショールーム)」は、稼働開始直後のため
現時点では評価対象外。
ⅲ）「研究開発」では、省エネルギー性能に優れる3製品を上市し、年間で45.6[t-CO2]
に相当する温室効果ガス削減量が見込まれています。

AIRTECH
Copyright 2021 AIRTECH JAPAN, LTD. All Right reserved.
30

＊サステナブルファイナンスレポーティング及び日本総合研究所による、「Annal Review」に全文を掲載しています。
当社ホームページ「当社のSDGsへの取組み」からご参照ください。

参照ページ
https://www.airtech.co.jo/page-12477/

1.11.2　サステナブルファイナンス報告概要

【社会側面での改善インパクト】

感染症対策製品については新型コロナウイルス感染症拡大に伴う医療分野等からのニーズに応えるべく、新製品8機種、増産対応の為の改良11機種の開発を行い大きなインパクトを創出できました。

感染症対策分野の販売実績　（2020年1月～12月末までの販売台数）

製品名	製品導入の目的	販売台数実績
クリーンパーティション	病院内の空気清浄(想定6,000台増産可)	6､000台以上、'19年比25倍
陰圧ユニット、陰圧ブース	陰圧病床	3,000台以上
安全キャビネット	PCR検査用	500台以上

1．省エネルギー（CO_2削減）～① 自社内　18.1～79.5（t-CO_2）
～② 各顧客の製造プロセスの省エネに、製品を通じて貢献

2．増産・販売強化により衛生（食品）、医療、福祉インフラへ貢献
～クリーンパーティションを年間6000台迄増産可能
～HACCP導入企業へのAS、AC等を納品し食品衛生向上に貢献

3．製品開発促進　～2019年該当研究開発内容は以下13件
省エネルギー　～高級ベンチ、AFU-C20、LEDバグキーパー、シミュレーション
感染症・食品関連 ～エアーカーテン、PCR、BSCAP、PEU、排気MAC、
運転席用空気清浄機、陰圧ブース、陽陰圧トンネル、薬液噴霧付き空気清浄機

AIRTECH
Copyright 2021 AIRTECH JAPAN, LTD. All Right reserved.
31

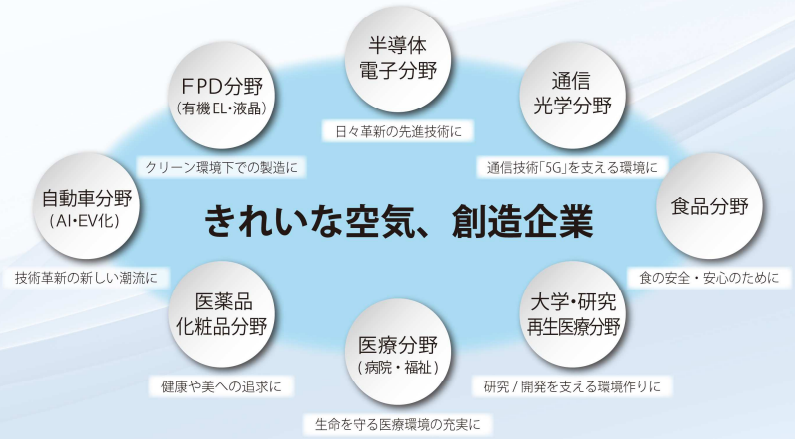
＊サステナブルファイナンスレポーティング及び日本総合研究所による、「Annal Review」に全文を掲載しています。
当社ホームページ「当社のSDGsへの取組み」からご参照ください。

参照ページ
https://www.airtech.co.jo/page-12477/

AIRTECH

Clean Air Innovation

さまざまな分野のあらゆるシーンで求められる
クリーンな空気環境にお応えします。



Copyright 2021 AIRTECH JAPAN, LTD. All Right reserved.

AIRTECH

Clean Air Innovation

公表日 2021/8/13

日本エアーテック株式会社
TEL 03-3872-6611/FAX 03-3872-6615

Copyright 2021 AIRTECH JAPAN, LTD. All Right reserved.